

令和3年度 水産研究課試験研究課題一覧

	品目	研究課題名	研究内容	研究期間	担当
1	スジアオリ	気候変動打ち克つスジアオリ安定生産技術の開発	猛暑、集中豪雨など気候変動による環境変化に対応するため、高水温、低塩分に強い品種を選抜する。また、天然採苗の安定化技術を開発することにより安定生産を図る。	R1～3	環境増養殖
2	ワカメ	色調に優れたワカメ新品種開発	栄養塩不足による「色落ち被害」に対応するため、色落ちに強い品種を開発することにより安定生産、品質向上を図る。	R1～3	環境増養殖
3	ワカメ、アオリ、クロノリ、もずく類、かき類、藻場	増養殖技術研究	有用な水産生物の増養殖および藻場造成の技術開発を行い、作る漁業と採る漁業の両立を図る。	H12～	環境増養殖 海洋生産技術
4	藻場、海藻養殖	IoTを活用した藻類養殖及び藻場の食害対策手法の検討	水中カメラ、リアルタイム水質情報システム等を活用し、食害魚種と出現パターンを把握することで、海藻養殖漁場と藻場を維持管理する手法を検討する。	R3～5	環境増養殖 海洋生産技術
5	アワビ	ワカメ養殖を活用したアワビ資源増大事業	アワビ保護区を設定し、その水面でワカメ養殖を行うことで餌料供給も行い、産卵に寄与するアワビ母貝を養成する仕組みを作る。	R1～3	海洋生産技術
6	キジハタトコブシ	魚づくり革命・もうかる養殖魚創出事業	気候変動等を見据えた陸上養殖技術の開発・導入に取り組み、産地間競争に勝ち抜くことができる「徳島ブランド魚」を創出する。	R1～R3	海洋生産技術
7	低利用資源	消費者の健康志向に応える六次産業化を推進する加工品開発支援	アミノ酸等に着目し、低利用資源を原料とする加工品開発をおこなう。	R2～4	海洋生産技術
8		資源管理に必要な情報提供事業	効率的な営漁を支援するために、漁海況情報やリアルタイム水温情報をホームページ等で情報提供する。	H9～	海洋生産技術 環境増養殖
9		漁獲情報デジタル化推進委託事業	資源管理対象魚種の拡大に対応するため、水揚げ情報の収集網を強化し、漁獲努力量や海況を把握する。	R2～	海洋生産技術
10		漁海況予測システム構築事業	ディーラーニングを応用し、県が保有する観測データや水揚げデータから直近の漁海況を予測するシステムを構築する。	R2～	
11	ハマチ、アユ、ウナギ、アマゴ	病害対策研究	魚介類の感染症等による病害の原因究明、診断、予防指導を行う。	H12～	海洋生産技術
12		遺伝子同定手法とスクリーニング法の導入による効率的な貝毒モニタリング体制の確立	新たな貝毒検査手法の有効性を検証し、より効率的な貝毒モニタリング体制を確立する。	R2～4	環境増養殖
13		徳島県海域で発生する麻痺性貝毒プランクトンの特性評価	本県で発生する麻痺性貝毒プランクトンの毒性や生理特性を評価し、それらに応じたより安全性の高い貝毒検査体制を構築する。	R3～5	環境増養殖
14		漁場環境保全対策調査研究	養殖漁場における水質及び底質の推移を把握し、その結果を基に適正な漁場利用を促進する。	S54～	環境増養殖
15		赤潮対策技術開発試験費	播磨灘における赤潮被害を防止するため、近隣県と共同で有害プランクトンの出現動向等を調査する。	H11～	環境増養殖
16		漁場環境監視等強化対策事業	赤潮、貝毒の被害防止対策を実施する。	S54～	環境増養殖
17	藻礁、中層型魚礁	水産基盤整備調査事業	水産基盤整備事業による藻場、増殖礁の事前・事後調査を実施する。	継続	海洋生産技術
18	ワカメ、クロノリ	栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発	紀伊水道西部及び周辺海域のワカメ・ワカメ養殖場における海水中の栄養塩濃度等の現場観測を行うとともに、施肥剤による生産力回復手法を開発する。	H30～R4	環境増養殖
19	藻場	ドローン空撮画像解析高度化事業	藻場の種別・季節的分布、被度の情報収集を目的に、自動操縦システムの導入や色域自動詮索システムの構築により、海用ドローンを用いた空撮画像解析の効率化を図る。	R2～R4	海洋生産技術
20	ワカメ	優良品種作出と種苗供給の安定化による国産ワカメ養殖のレジリエンス強化と生産増大	産業ニーズの高い優良株の作出、種苗生産・育苗過程への新技術導入による隘路の解消、食害対策技術の開発により、高品質な国産ワカメの生産増大・安定供給の基盤を構築する。	R3～6	環境増養殖 海洋生産技術
21	ウニ	気候変動から漁場を守る！農林水産物の未利用部位を活用した除去ウニ増殖モデルの開発	藻場の食害対策として除去されたウニは身入りが悪く、このままでは商品化できない。そこで、農林水産物の未利用部位を餌にしてウニを肥育し、未利用部位処理コスト削減と新たな養殖業の創出を目指す。	R2～4	海洋生産技術

	品目	研究課題名	研究内容	研究期間	担当
22	藻場, 海藻養殖	ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発	ブルーカーボンを利用した養殖技術・藻場形成技術の開発を行う。また、藻場の炭素貯蔵量を評価するために、海部沿岸の藻場の現存量調査、環境DNA採水調査、難分解性有機性炭素の採取を行う。	R2～R6	海洋生産技術 環境増養殖
23	魚介藻類	漁業資源対策研究	機船漁業で漁獲される魚類について、主要漁協の漁獲統計調査や漁獲実態調査から資源動態をモニタリングする。また、未利用・低利用資源の調査等を行う。	H13～	海洋生産技術
24	アユ	河川生産力有効利用調査研究	吉野川におけるアユの資源量調査の実施により、河川資源の有効利用に資する。	H2～	環境増養殖
25	ハモ, タチウオ, アシアカ, いわし類, アジ類, サバ類等	水産資源調査・評価推進委託事業	ABC(生物学的許容漁獲量)の決定と対象魚類の資源状態の把握を目的として、県内主要漁協の漁獲量やそのサイズを調査する。加えて、海洋観測を実施して卵稚仔を採集するとともに水温、塩分等の情報を得る。	H10～	海洋生産技術
26	ハモ, あわび類等 24魚種	「資源回復計画推進事業」主要漁業種に関する調査研究	県内の主要な漁業種類の操業実態と重要魚種の資源動向を把握して、漁業者の自主的な資源管理の取り組みの効果・影響を分析する。	H17～	海洋生産技術
27		漁獲管理情報処理システム整備事業	漁獲情報を収集するためのシステム維持管理	継続	海洋生産技術
28		公共用水域水質調査	水質汚濁防止法に基づき、海部沿岸海域の水質を調査し汚濁状況を周年監視する。	H27～	海洋生産技術
29		魚類防疫体制整備事業	魚病の発生・伝播の防止、被害の軽減を図るための検査の実施、魚病発生時の防疫対策等をおこなう。また、養殖生産物の安全確保のため、医薬品の適正使用指導、医薬品の残留検査を実施する。	継続	海洋生産技術